

ウランバートル市における障害者の社会参加促進プロジェクト

ニュースレター第5号 (2017年12月)

障害者リーダー本邦研修大特集!!

日本に到着！ 2017.12.12



12月11日、いよいよ「障害者リーダーシップ育成」本邦研修に参加する8名がモンゴルを出発。海外は初めてのテムーレンさん（脳性マヒ）、介助者のムンフボルドさんは出発ロビーで待ちきれない様子。飛行機も初体験です。成田空港に降りて入国審査へ。指紋を取るのに一苦労でしたが、税関をスムーズに通過しバスに乗り込みました。福祉車両の大型バスは、車椅子のまま乗降可能。快適な移動でした。研修員はみな、車窓からの景色に歓声。「道路も建物もきれい!」、「渋滞がない」等々、東京の風景を楽しんでいました。12日から研修開始。発見、学びの本番はこれからです。

日本研修①「障害のある人が働くということ」 2017.12.16



12月12日、研修の初日は「就労」がテーマ。日本障害者リハビリテーション協会参与の寺島先生の講義でした。日本では、他国と比べると障害者の雇用率が守られていること、雇用率が未達成の企業から集めたお金で、雇用している企業をサポートしたり、職業訓練に活用したりと、障害のある人達が働ける仕組みが整っていることを知りました。研修員から、「そもそも日本では障害者をどうやって決めているの?」という疑問の声。モンゴルでは「労働能力」で判断しますが、日本は違います。日本は「機能障害」、つまり、目がどのぐらい見えるか、足をどのぐらい動かすことができるか、など心身の機能で障害の程度を判断します。日本では、「心身の機能に障害がある」と「働くことができるかどうか」を全く分けて捉えていることを知った研修員達。「労働能力って誰が決めるのだろうか?機能障害=労働能力が失われている、という考え方は適切だろうか?」モンゴルの現状を見つめ直しました。

日本研修②「バリアフリーは意識と態度から」 2017.12.17



12月13日、午後から外出して地下鉄やバスを体験しました。案内して下さったのは、DPI日本会議の今西先生。長年に亘り、障害のある人達の「移動権」のために尽力してこられた方です。先生の午前の講義を受け、午後から現場に向かいました。幡ヶ谷駅から曙橋、駅からはバスで新宿駅西口へ。途中は歩きながら、歩道の淵の傾斜や横断歩道の誘導ブロックなどもチェックしました。研修員は、「駅員さんが、電車の乗り降りですロープを設置し、しかも降りた後もエレベーターまで案内してくれる」、「駅員さん、バスの運転手さん共、こうしたサービスが仕事の一部として定着している」と驚いていました。中でも、毎月、定期的に研修が行われ、利用者への接し方の改善に取り組んでいることに感銘を受けた様子。「今日の体験は、決してハイテクな設備ではなかった。交通機関に従事する人々の態度が素晴らしい!」

人々の意識や態度。何度も耳にしてきた言葉ですが、今日の体験で目指す方向が真にイメージできたのではないのでしょうか。



日本研修③「車椅子のプロデューサー」

2017.12.18

12月14日午前、この時間は障害のある人の就労事例として、NHKのプロデューサー、竹内さんの話を伺いました。3歳で下肢障害となってから 学生時代まで、就職活動や現在の仕事と、多岐に亘るストーリーは、時間を短く感じさせる程魅力的でした。

30か国の一人旅やアメリカでの新聞記者時代の経験など、研修員達は映画を見るような心地でしたが、竹内さんの経験談からしっかりとモチベーションを受け取ったようでした。

お話の後は、研修員から「就職時に差別は?」、「車椅子で取材に行った時の相手の反応は?」、「働く上で、他の社員と条件の違いは?」など、質問の嵐。障害の有無と関係なく、プロとして仕事の責任を果たすことの大切さ。竹内さんの職業人としての意識の高さに触れ、研修員達は感銘を受けていました。

日本研修④「障害者とは?」

2017.12.19

12月14日午後は、新宿区障害福祉課の講義。日本では障害者をどうやって認定しているか、また「障害者」となったらどのようなサービスが受けられるかを学びました。認定の流れや障害の等級、手帳のこと、介助サービスや支給される補装具等々、日本の障害者福祉サービスの全体像が掴めた様子。研修員から「自治体によってサービスの違いはあるか」、「入所施設の紹介はどこが行うか」、「日本では、手当や年金の搾取を防ぐ法律があるか」等、具体的な質問。実際に障害認定やサービス提供に従事している研修員が多く、モンゴルと比較しながら熱心に聴いていました。

日本研修⑤「日本一のリハビリ施設」 2017.12.24



12月15日、国立障害者リハビリテーションセンターを訪問すると、受付にモンゴルの国旗が。歓迎ぶりに研修員一同感激でした。治療、リハビリ、自立生活訓練まで対応する総合リハビリ施設。研修員は、規模の大きさに圧倒されていました。「外国人も利用できますか?」というユーザー目線の質問も。立派な設備に目を奪われがちですが、よく見ると、作業療法では粘土など安価な物を使った訓練が。「一日ここにいて訓練の内容をじっくり見たい!」と熱望する声が上がっていました。

併設する職業リハビリテーションセンターでは、機械、設計、コンピューターのプログラミングや事務系のコースと種類も多様。

「開設時の38年前は 製造が中心だったが、今は事務系が人気。時代のニーズに応じて訓練コースも変化している」と職業指導部長。このセンターは、障害のある人だけでなく、雇用を考えている企業もサポートしており、きめ細かなサービスに研修員は興味深く聞き入っていました。



<その他の活動>

DAISY図書 読み聞かせ会 with スペシャルオリックス! 2017.12.19



モンゴルスペシャルオリックス主催で、63番特別学校の生徒と家族を対象とする研修が行われました。スライドに写る電子図書を食い入るように見る子供たち。DETファシリテーターのザヤさんが、DAISY図書を活用した勉強法を公開しました。

体育館は満員御礼です。実は、ザヤさんも63番特別学校卒業生。しっかりとした自己紹介をし、勉強法を教えてあげることができました。教員によると、一番の課題は卒業後の進路だそう。卒業後、就職できる生徒はほとんどいません。今回は、活躍している卒業生のザヤさんを、親御さんたちに見ていただく良い機会にもなりました。

Office: Government Building – 2, United Nation’s Street – 5, Ministry of Labor and

Social Protection Ulaanbaatar – 15160, Mongolia

Website: <https://www.jica.go.jp/project/mongolia/015/index.html>

E-mail: dpub.jica@gmail.com



Facebook: <https://www.facebook.com/jicadpub>